



2月だ！ポーポキの住む神戸は暖冬ですが、インフルエンザの流行やコロナウイルスのニュースが気になります。ポーポキは濡れるのは嫌いですが、積極的に手も足も洗っています！みなさんもお気をつけてね！

Popoki's Hot News!

Coming up!



3月8日 第23回 中央区ボランティア交流会参加！

3月17日 持ち寄りパーティ No.3

川原畑洋子さんやほかの人とおしゃべりし、
一緒に SHAKE HAND 活動

4.10 ポーポキ友情物語活動 in 大槌&大船渡 報告会

「一言の平和」コーナー



ポーポキのお友だちのコールにゃん（アスタにゃんのお連れ合い）は、次の「一言の平和」を送ってくれました。「懸命に働き、最良の夫、息子、犬の飼い主、隣人を務めるように全力を尽くしたと自覚した日の夜に横たわった時に平和を感じる。この惑星のほんの一部を、より良い場所に出るすべての事を行っている限りは。」（齋藤紀乃訳）

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？

ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !

中日本地区 YMCA 第 20 回グローバル教育研修会

大阪 YMCA グローバル事業推進室



2月1日・2日の2日間に渡って六甲山 YMCA で第 20 回中日本地区 YMCA グローバル研修会が開かれました。今回は、神戸大学からロニー・アレキサンダー先生をお招きして講習が行われました。テーマは、「ジェンダーと平和」で様々なワークショップを通して学びを深めました。出身地も年齢も様々な方が参加されました。

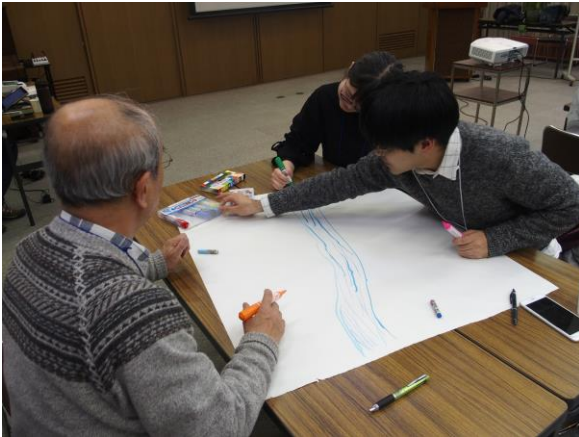
セッション 1 と 2 ではオリエンテーションとアイスブレイキングアクティビティと各 YMCA の近況報告が行われました。

セッション 3 からは、導入部分として講師のロニー先生の「ポーポキ」（ハワイ語で猫）の絵本を使ったワークショップから始まりました。ポーポキはなぜ悲しんでいるのか、なぜ周りは助けようとしなかったのかなどをグループで話し合いました。年齢も出身地も全てバラバラで、多様性のあるグループでしたが、そんな違いも感じさせないほど参加者全員は積極的に発言をしていました。特に高校 2 年生の参加者や日本語を勉強している留学生も若者ならではの目線で自分たちの意見をシェアしていました。また、様々な猫のイラストから性別と職業を考えるワークショップも行いました。色、体格が違う中、見た目だけで判断していいのかなど参加者は悩む中、グループ全員が合意に至るまで話し合いを重ね、完成させていました。それぞれのグループごとに違ったマッチングができていて、それぞれの視点や考え方・基準の違いがよくわかりました。



セッション 4 からは、ロニー先生が担当されました。自分の性を自覚した年齢を川で表すワークショップを行いました。性やジェンダーについて話し合うことに普段は抵抗を覚えますが、セッション 3 を経て話しやすい環境が作られていました。老若男女の参加者がいる中、それぞれの意見を話しやすい範囲で共有していました。また、その後ロニー先生

から無意識の偏見について話されていました。1日のワークショップを終えて、それぞれがどれだけ無意識のうちに偏見を持っていたのかをよく考えさせられていました。



セッション5は、ポガ（ポーポキのヨガ）から始まりました。2日目も頭と体をよく使うワークショップがたくさんありました。5枚の写真だけを使ってどのように自分の性を表すかを話し合ったり、性とジェンダーの違いの講義を受けました。その後、ロニー先生が性やジェンダーについての質問（例：ノージェンダー用のトイレを作るべきか）にイエスかノー、中間で答えました。「自分が違う性だったらよかったと思うことがあるか」という問いに対して多くの参加者がイエスと答えました。ノーと答えた人の大半は男性でした。ロニー先生はそれに対して、「当たり前だと感じている人（マジョリティー）はそれに違和感を持たないが、当たり前とは思わない、不利な面を感じている人（マイノリティー）は違和感を持つため、それに対して抗議をします。そのためジェンダーという社会的問題は、女性だけの問題ではなく女性はいマイノリティーの一部であるため「女性の問題」としてよく取り上げられています」と説明してくれました。



その後、LGBTQIA+やSOGIの理解を深め、同性愛やセクシャルマイノリティーの世界と日本の現状について講義がありました。ジェンダーと教育は大きな関わりがあるなか、未だに世界的に女兒教育や女性のエンパワーメントに欠けていたり、日本は世界の中でも男女平等ランキングの中で100位にも入れていない現状を知りました。また、戦争や紛争がある国では女性へのレイプやセクシュアルバイオレンスは戦争の一つの武器として使われていることや女兒が結婚させられ、子供を若い年齢で産んでいること

など、衝撃的な内容も共有されました。また身の回りにはどのようなジェンダーが隠れているかを実際に外に出て探しに行きました。

セッション6では、モールを使って社会問題への不安の度合いをグループで話し合い、長さで表しました。これを通してダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（包摂）について講義し、考えや視点が異なってもその違いを尊重する重要性について学びました。

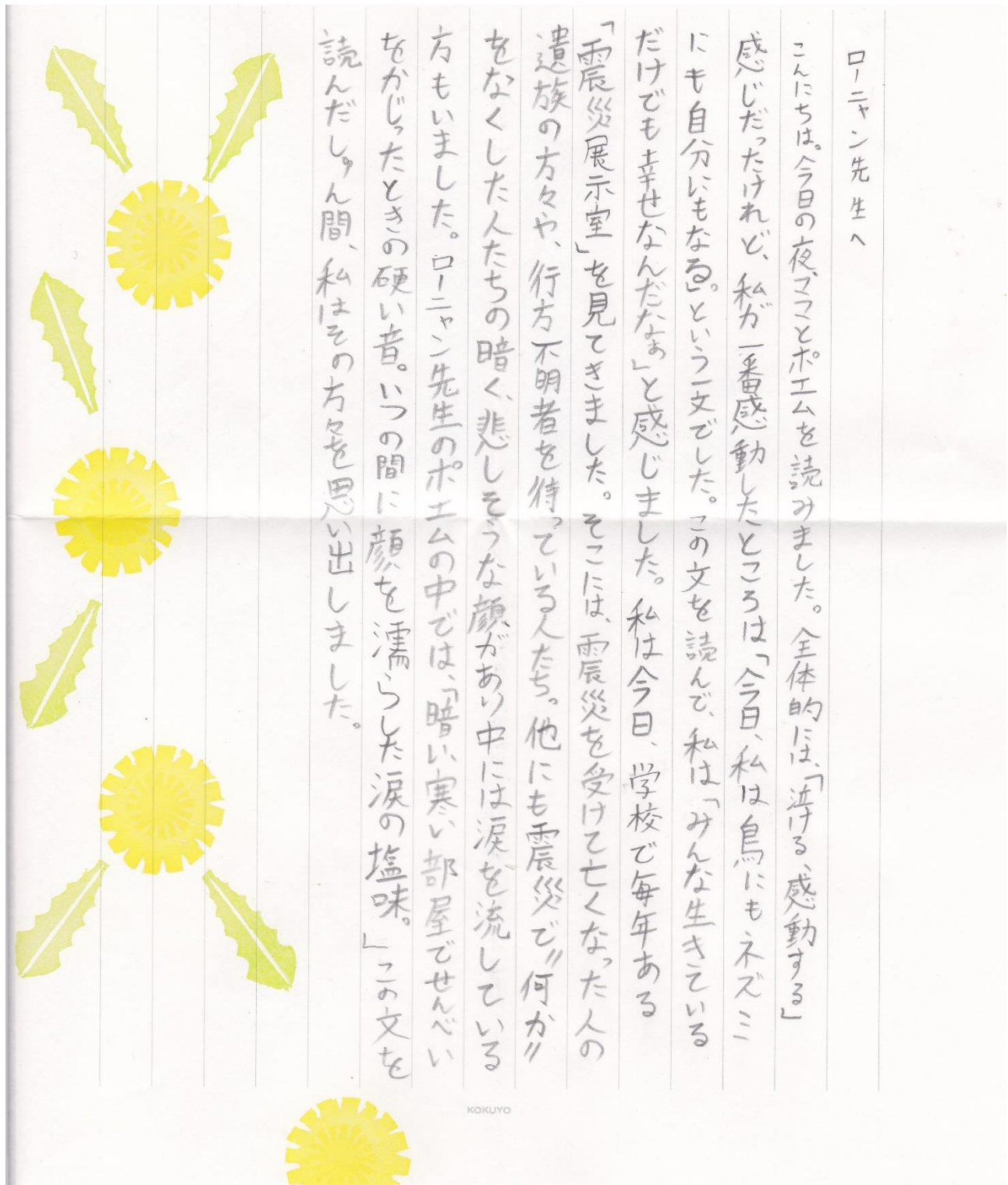
また、グループごとにポーポキの絵本を作成しました。2日間での学びを得て、それぞれのグループで模造紙1枚に5ページ分の絵本のイラストを描きました。各々のポーポキの絵本を通して、2日間の学びを全員とシェアしました。

上記のような様々なワークショップを多様性豊かな参加者で行うことで心を通して、違いを受け入れ、理解し、尊重することがどれだけ重要なのかを学び、ジェンダーと平和についての理解を深めることができ、良い繋がりができた2日間となりました。



「阪神・淡路大震災によせて」を読んで

ポーポキの友だちのしおりにゃんは、ろにゃんが書いた阪神・淡路大震災の思いを表す詩を読んで、感想文を送ってくれました。とても素敵なお手紙ですので、しおりにゃんの許可をえて、載せることにしました。詩そのものは、「ポーポキ通信 No.173」(2020.1)に掲載しています。ポーポキの URL で読むことができます。 <http://popoki.cruise.japan.com>



No. 2

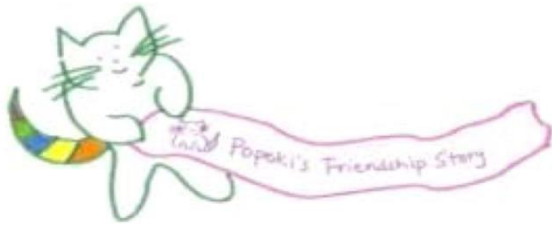
私は震災を体験してないから、分かっているつもりだけど、震災を体験した人ほどの食べ物のありがたみなどは、分かっているつもりだけども、分かっていないかもしれません。そして、いつか「南海トラフ大地震」という大地震も来ると思います。そのときどこに地震が起ころうと、後悔や悔いのないようには、一日一日を大切に生きていこうと、私は今日一日を通して思いました。

ローレン先生の書いたポエム、そしてこの日何があったか！。

絶対、七ねません。

二〇一〇年一月十七日、栗田夕梨（しおりちゃん）

KOKUYO



Popoki's Interview

*ポーポキの友だちの二人、ローレンさん(2019年)と木下さん(2018年)がインドネシアのガジヤマダ大学で開催される「神戸大学ユネスコチェアサマープログラム」に参加しました。今回は、その体験についてお互いをインタビューしました。

インドネシアでの UNESCO チェア サマープログラム 2019年

Interview: Lauren Peng さん

Interviewer: 木下みなみ

1. なぜこのサマープログラムに参加しましたか？

その時、私は民間企業でのインターンシップかこのプログラムに参加するか二つの選択肢から選ばなければなりませんでした。そして、このサマープログラムを選びました。なぜなら今まで台湾でこのような重要な問題について学んだことがなく、学ぶ機会だったからです。様々な角度から、世界と繋がる方法のようだと考えました。

2. インドネシアにいる間、どのように現地の学生や日本からの学生と過ごしましたか？

ジェンダーと災害マネジメントの関係については基本的に何も知らなかったもので、それを学ぶのは少し大変でしたが、現地の学生と日本人の学生がプレゼンテーションを理解するのを助けてくれました。全員が私たちに教えてくれて、授業で何を話していたのかを授業の後に説明してくれたので、クラスが何を話しているのかを知るのは簡単でした。また、クラスの後、生徒全員がパーティーを準備し、自国の特別な料理を共有し、文化の違いについて話しました。当時はすべてがとても楽しかったです。

3. このプログラムで2週間過ごして、あなたにとって何が最も忘れられない講義でしたか？

授業の多くは理解する上で難しく、複雑でしたが、全ての講義で多くのことを学びました。取り組まれている問題をゆっくり理解しました。私にとって際立ったクラスがあるとするならば、それはハフィズ氏のスピーチです。簡単ではありませんでしたが、彼は複雑なことを簡単な方法で説明し、それは本当に印象的でした。

4. インドネシアの学習体験を台湾の利益のためにどのように活用しますか？

台湾には火山はありませんが、災害管理は重要だと思います。インドネシアは私たちが学習するための組織された方法を与えてくれたので、私たちは自分自身で工夫し、台湾の今後の環境災害に備えようとする事ができるかもしれません。



2018/09/11 文化紹介



2018/09/13 ロールプレイ



2018/09/16 授業後の集まり

Interview: Minami さん

Interviewer: Lauren

1. なぜこのサマープログラムに参加しましたか？

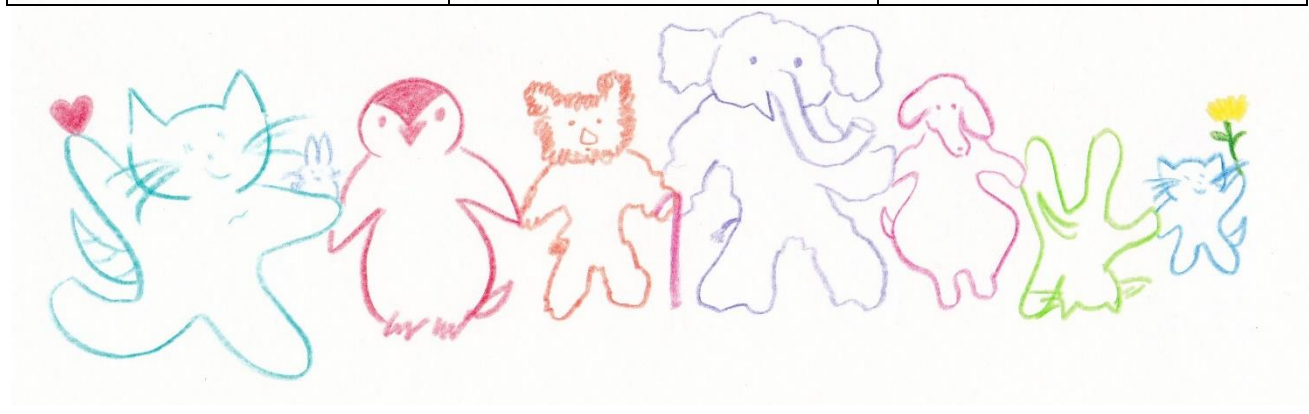
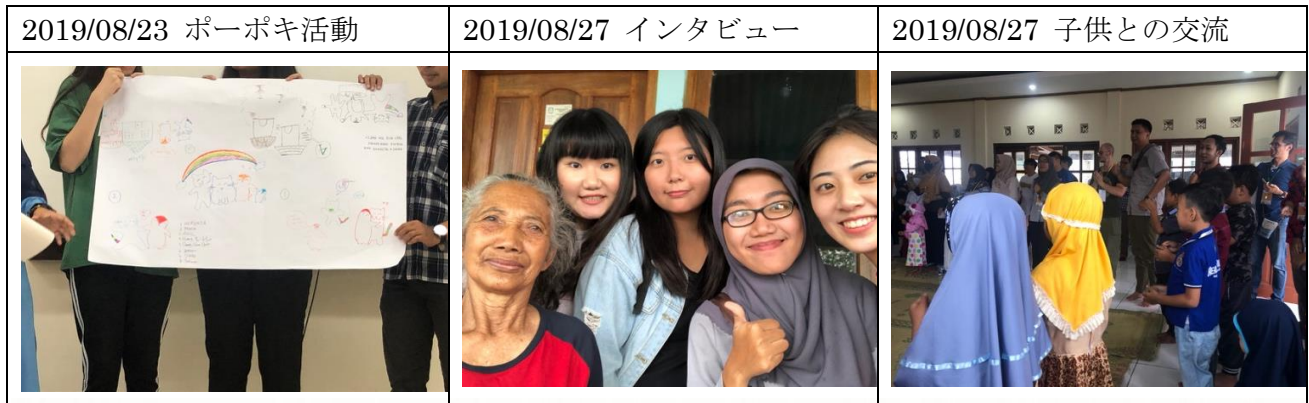
私は“ジェンダー”と“災害”について興味があったのでこのサマープログラムに参加しました。これらの問題についてより学ぶ非常に良い機会だと考えました。また今まで一度も東南アジアを訪れたことがなかったので、現地に行って学ぶということに関して良いチャンスでした。

2. あなたが学んだことで最も印象に残っていることは何ですか？

実際のところたくさんのことを学びました。ジェンダーと災害の問題についてだけでなく、インドネシアの文化や宗教、日本と異なったインフラ状況などについて知ることができました。実際に、インドネシアの文化やライフスタイル（お祈りの時間やハラルフード、ハラルコスメなど）に非常に驚きました。インドネシアでは GO-JEK と呼ばれる日本にもある Uber（配車・デリバリーサービス）のようなアプリケーションがあり非常に充実しており、多くの学生が使用していました。全てのことが新鮮で面白かったです。

3. サマープログラムを通して学んだことで生かせることを日本で生かせると思いますか？

インドネシアでは、村からより効率的に素早く避難するために、姉妹村というものがあります。また、インドネシアでは、村全体で集団避難をします。地域でのつながりというものを重要なものとしています。このような方法というのは日本でも津波やその他の災害時の避難においても有効だと思いました。



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 142

今月のテーマは、ツイスト！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
2. では、立って、腕を組みましょう。両腕に平等に力を入れながら、上半身を右へ、左へ。
3. 次は、足も組んで、足にも力を入れましょう。バランスを取りながら腰から右へ、左へ。
4. 最後に、膝を床につけましょう。手をクロスして床につけましょう。膝をまげた状態から、右足をうしろへ伸ばし、戻してから次に左足もうしろへ伸ばしましょう。
5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？



次回のポー会： 3月17日 16:30@あすパーク(イベントの後)

2020.3.8 第23回 中央区ボランティア交流会で読み聞かせ 10:00～

2020.3.17 10:00～10:30 はとぼっぼ保育所(神戸大学医学部内)で読み聞かせ！ 勤労会館2階 多目的ルーム (ポーポキは10:30～10:40)

2020.3.17 14:30～16:30 絵と絵本と医療と災害の持ち寄りパーティ Part 3 川原畑洋子さん、ほか。会場：あす・ぱーく(神戸市灘区中本郷町5-1 大和公園内)。

4.10 ポーポキ友情物語活動 in 大槌&大船渡 報告会 18:00～20:00 学生青年センター
* コロナウイルス感染拡大を避けるため、延期・中止となる場合もあります。近くになりましたら、ご確認ください！

ポーポキの友だちからのおすすめの絵本

『りょうくんのすすむみち一学校に行けない君たちへ』作・絵 かねしろ みゆき、学研 2019年。
大槌町 『生きる証 岩手県大槌町 東日本大震災記録誌』 監修 大槌町教育委員会、ほか。2019年7月。



絵と絵本と医療と災害の持ち寄りパーティ Part 3
Pot Luck Party with Drawings & Picture Books & Medical Care & Disaster

Making thoughts into shapes
「思いを形にする」

岩手県大槌町「おばちゃんくらぶ」代表 Kawahata Yoko 川原畑洋子さん トーク &
Otsuchi Obachan Club おおつち「おばちゃんくらぶ」 Workshop SHAKE HANDワークショップ」

日時 2020年3月17日(火) (14:00~16:30)

場所 あすパーク(灘区大和公園南側内) As Park (Yamato Park, South Side, Nada-ku)
 〒657-0032 神戸市灘区中郷町5丁目1大和公園南側内

<http://www.cskobe.com/aspark/>

Tel (当日・会場) 078-200-5293

Information
問い合わせ先

Popoki Peace Project ポーポキ・ピース・プロジェクト FAX 078-304-2790.

e-mail ronniandpopoki@gmail.com

Fee
参加費

200円 (ヌードサケ代) ¥200 (for nude salmon)



メッセージ・Message

私たちは日常生活の中で「不安」になるきっかけが多数あります。災害が起これば不安になりますが、どうすれば自分や周りの人を落ち着かせることができるのか。我々は、創造的な活動を通して「安心」をつくる可能性を探ってきました。

阪神・淡路大震災から25年、東日本大震災から9年が経ちました。手作りの白いヌード鮭に様々な人が、東北への想いを込めて自由にデコレーションし、メッセージと一緒に大槌に帰します。そのデコレーション鮭が展示販売されることで、人と人の新たな繋がりができます。「不安」に思うだけではなく、より安心できる生活について語り合しましょう。



プログラム・Program

- 13:30 受付開始 Registration
- 14:00 あいさつ Greetings
- 14:05 紙芝居「ポーポキ、安心って、描ける？」
Kamishibai Popoki can you draw safety
- 14:15 川原畑洋子さんによる「おばちゃんくらぶ」の活動、震災後の経験などのお話
Kawahata Yoko "Obachan Club activities and Great Northeast Japan Disaster,
- 14:30 「ヌードの鮭に飾りをつけよう」Decorate 'nude' Salmon
 参加者各自が「自分の鮭」を作りながら、自由に語り合います
- 15:30 作ったばかりの「自分の鮭」への思いを交換しましょう Share our work!
- 15:50 まとめ Concluding remarks
- 16:00 自由交流、トークタイム Talk time (16:30 解散)

主催：アート・災害・安心研究会(神戸大学社会システムイノベーションセンター)・共催：神戸大学ヒューマン・コミュニティセンター・協力：ポーポキ・ピース・プロジェクト、コミュニティ・サポートセンター神戸



絵と絵本と医療と災害の持ち寄りパーティ Part 3
Pot Luck Party with Drawings & Picture Books & Medical Care & Disaster

ゲスト紹介・Special guest

川原畑洋子 (かわらはた ようこ)



おおつち「おばちゃんくらぶ」代表。東日本大震災後、大槌町の被災女性たちと共に「おばちゃんくらぶ」を立ち上げ、手作り品の制作・販売を通して、被災地と全国各地を結ぶ活動を展開している。横浜、京都、神戸、岡山、沖縄などの方や世界中の方が、「白いヌード鮭」にさまざまな装飾を施し、チャリティイベント「Shake Hand」デコ鮭を主催し、3.11に展示販売会を開催。昭和30年8月生まれ。岩手県大槌町在住。

おおつち「おばちゃんくらぶ」

東日本大震災後、関西のデザイナーグループ(現 adu)と知り合い、「いつか生まれた川に必ず戻る鮭のように故郷へ帰って暮らしたい」「世界中の人が鮭と手仕事とデザインを通して手と手をつなぎ輪ができるように」「手仕事でおばちゃんたちが元気になるように」そんな思いの下に「おばちゃんくらぶ」ができ、Shake Hand プロジェクトが生まれました。Shake Hand は①Shake: ローマ字読みで大槌とかかわりが深い鮭、シャケ、②Hand=手、手仕事、③Shake Hand=2つを掛けて「握手」を意味しています。Shake Hand は、2014年に始まり、2017年から鮭の故郷である岩手県大槌町「おばちゃんくらぶ」が主催する「デコ鮭」活動がスタートしました。手作りした白いヌード鮭に様々な人が、東北への想いを込めて自由にデコレーションし、メッセージと一緒に大槌に帰します。そのデコ鮭が展示販売されることで、人と人の新たな繋がりができることや、手作りの楽しさが広がることを願っています。



デコ鮭の写真は、左から「ヌード鮭」、「Shake Hand 大賞」、「Shake Hand 賞」。

**各地でヌード鮭に、各自が自由に飾りをつけて、メッセージも添えて、大槌町にもどします。

***おばちゃんくらぶの手作りの品<バック、小物入れ、デザイン手ぬぐい等>は神戸「あすパーク」で展示販売。メール・電話にて注文販売



ポーポキ・Popoki

神戸生まれの平和が大好きなねこ。みんなと友だちになって、仲良くしたい。
A cat born in Kobe who loves peace who wants to be everyone's friend.

アート・災害・安心研究会

神戸大学社会システムイノベーションセンターの研究プロジェクト:「様々な表現方法を用いた災害コミュニケーションの発展可能性に関する学際研究~安全安心を軸に~」(2017年~2019年)。
研究代表:アレキサンダー・ロニー。

Popoki in Print

ポーポキ通信のバックナンバー：

<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 「ポーポキのミニ平和映画祭」「こくしのみど52」『神戸青年・Kobe YMCA News』No.652 2017.7-8
- ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange <http://www.interpeople.or.jp>
- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に9条がある」NO: 66 2012年5月12日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』2012.1.19 (伝える1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第19号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのみど⑮(パレスチナについて)『神戸青年』No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる!」THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第2号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第35号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色? ポーポキのピース・ブック2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第2弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇宙賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全30条 イラストで表現 地元ゆかり 6名がパネル制作」2008.10.8 10





私にとってポーポキ

鹿児島大学 森田豊子

私が初めてペルシャ語を学ぶ同級生たちと一緒にイランに行ったのは1989年で、前年の8月にイラン・イラク戦争が停戦となったばかりでした。テヘランでは知り合いのところでホームステイしました。その頃イランには物資がなく、赤ちゃんが生まれたばかりのその家に紙おむつや粉ミルクをカバンにいっぱい詰めて行ったことを覚えています。

街の中には、あちこちに空爆の跡が見られました。門の向こうの家があったところにぽっかりと穴が開いているのです。ドアや窓のない車が普通に走っていて、何を買っても新聞紙で包んでくれました。そんな状況でも人々は私たちにとても親切にしてくれました。持っているお菓子や果物を喜んで分け与えて、もてなしてくれました。「たいへんだけど、空襲を知らせるサイレンが鳴る日々よりはよっぽどまだ」と話してくれました。

イラクは戦争中に禁止されている化学兵器を使用しました。しかし、イランがいくらそのことを批難しても、欧米諸国との関係が悪かったイランに同情し、支援してくれる国家はいませんでした。

あれから30年が経ち、テヘランの街には戦争の面影はありません。経済制裁下でも物はあふれています。しかし、イランの人たちはまだ記憶していると思います。国際的に孤立した中での戦争がどれほど苦しいことなのかを。強い人の「正しさ」が優先される国際社会では、戦争しないことが何より大切だということ。

戦争なんか起きないことを心から願っています。

写真：イランの詩人ハーフェズ廟に集まる子どもたち



ご協力お願いいたします！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動

をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10か国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「ご一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸



ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!